

集まれ

みんなの広場

ホリデー茶会

茶の湯をもっと身近に  
おもてなしの心を体験



茶道具の一つである水指(みずさし)や茶わんなどに、ニューヨークのアーティストの作品を取り入れ、ホリデーらしい茶会を催した。



◀子供から大人まで年齢層問わず参加。茶の湯は初めてという参加者も、気軽に茶を楽しんでいた。

▶お辞儀の仕方や抹茶の飲み方、茶菓子の頂き方などの作法を学んで、茶の湯の精神に馴染んだ。

ダウンタウンの天理文化協会と先月20日、奉千家流茶道講師の北澤宗紫(そうし)さんによる「ホリデー茶会」が開催された。

奉千家同門会米国東部支部に所属する北澤さんは、ニューヨーク州の自宅やブルックリンで茶道クラスを開催しているほか、日本人学校で子供のための茶会などを実施している。通常のけいこでは干利休より続く伝統と格式のある奉千家流の茶を教えている北澤さんだが、この日のお茶会は「ニューヨークで

手に入る小物を茶道具に見立てて、遊び心を入れた茶会にさせていただきました」と話す通り、ホリデーを意識してシルバー色の木の枝のキャンドルホルダーを使ったり、ステンレスのアイスボックスを水指として使ったりするなど華やかさを演出、ひと味違った茶会となった。

日本人の妻に誘われ、茶の道に入つて4年になるというエドワード・アカリさんが「亭主」になり、「客」のために風炉(ふうろ)で湯を沸かして茶を点(た)てる。

そのお点前(てまゑ)の流れに沿つて、風炉や茶筌(ちやせん)などの茶道具の扱い方などを北澤さんが分かりやすく説明し、「二生懸命に客をもてなす亭主の心をくんで楽しんでください」と客に促す。

茶をもてなされた客は、北澤さんから「まず隣りのお客さまに『お先に』とあいさつし、亭主に『ちようだいします』とお辞儀してからお茶を頂きます」と作法の説明を受け、お茶と一緒に北澤さん手作りの和菓子をゆづくりと味わった。

「お茶室には畳や掛け軸、茶花など日本の文化が凝縮していて、興味を引かれてしまいました」と話す通訳者のレイチエル・クラークさんは、「先生からは気配りの大切さなど、お茶の精神をたくさん教わりました」と言う。北澤さんがブルックリンで行っている茶道クラスの生徒である鈴木由美子さんは、「お茶を習っているひとときは、忙しい日常から離れて自分を取り戻せます」とホッとした表情。いつか娘にもぜひ継承させたいですと

続ける。  
ウマ・タカハラちゃん(6歳)のベビーシッターのメサ・シネ・トリパニヤさんは、「ウマちゃんの父親が日本人で、娘に日本の文化に触れさせたいと頼まれて参加しました。とても平穩な雰囲気の中でお茶を頂き、わたしも心が落ち着きました」と話し、ウマちゃんは「お茶もお菓子もすごくおいしかった」と茶会をすっきり気に入った様子。

敷居の高いイメージのある茶の湯だが、参加者は皆気軽に楽しんでいた。

今週の講師



北澤宗紫さん

マンハッタンのクラスでは、いすに腰掛けで行う立礼(りゆうれい)の点前から始める予定です。これだと、正座が苦手な方でも気軽に参加し、けいこができます。まず茶道具の扱い方を通して、お点前の初歩を身に付けます。そして身近にある物を茶道具として見立てて使ったり、友人を招いて茶を振る舞ったりするなど、日常生活の中に茶の湯の心を取り入れられます。気軽に楽しみましょう。

この指とまれ!

Holiday Tea Ceremony

毎月第2と第4水曜日の午前10時から正午まで、第2と第4土曜日の午後2時30分から4時30分まで、天理文化協会(43 W. 13th St.)にて1月22日(水)より1月クラスを開講。体験クラス(有料)もあり。

■問い合わせ

www.murasaki-chanoyu.com

murasaki.tea@me.com

募集

編集部では「みんなの広場」に登場していただける団体を募集しています。掲載を希望する場合は活動内容を明記の上、「みんなの広場」係までご連絡下さい。

FAX: 212-431-9960

reader@nyjapion.com